

## 徳合城について

徳合城の築城年代は諸説ありますが、一説には永禄8年（1565年）根知城主の村上義清の子の安芸守国清（上杉氏家臣の村上国清）の築城といわれています。年表と照らし合わせると疑問が多く、南北朝から戦国時代にかけて活躍した城と見られ、今の中村から深山部落にあったと思われます。

標高、308mのトヤ峰を中心につくられた山城でした。南西面はいくつかの深い谷や尾根で遮断され、北西面はゆるやかな斜面で下降して中村の館跡に通じています。東は尾根続きで464mの大峰砦があり狼煙台、詰城的な役割を果たしていたと思われます。



糸魚川市指定文化財

## 史跡 徳合城跡

徳合城跡は標高三三六メートルのトヤ峰を中核に曲輪を重ね、東方の大峰砦を詰城、海岸の筒石城（城ヶ峰）を支城とする堅固な中世の城館跡です。

鎌倉時代末期から南北朝の頃には西浜頸城郡菟田保の地頭であった源姓村山氏が城を構え、戦国時代末期には村上義清の子である国清が城主であったとも伝えられています。

戦国時代においては越後の上杉氏の居城である春日山城の支城として重要な役目を果たしたと思われる。「たての屋敷」と呼ばれる泥田堀で囲まれた館跡や城主の菩提寺である宝昌寺をはじめ、城に関する遺構や地名が今も多く良好に残っています。

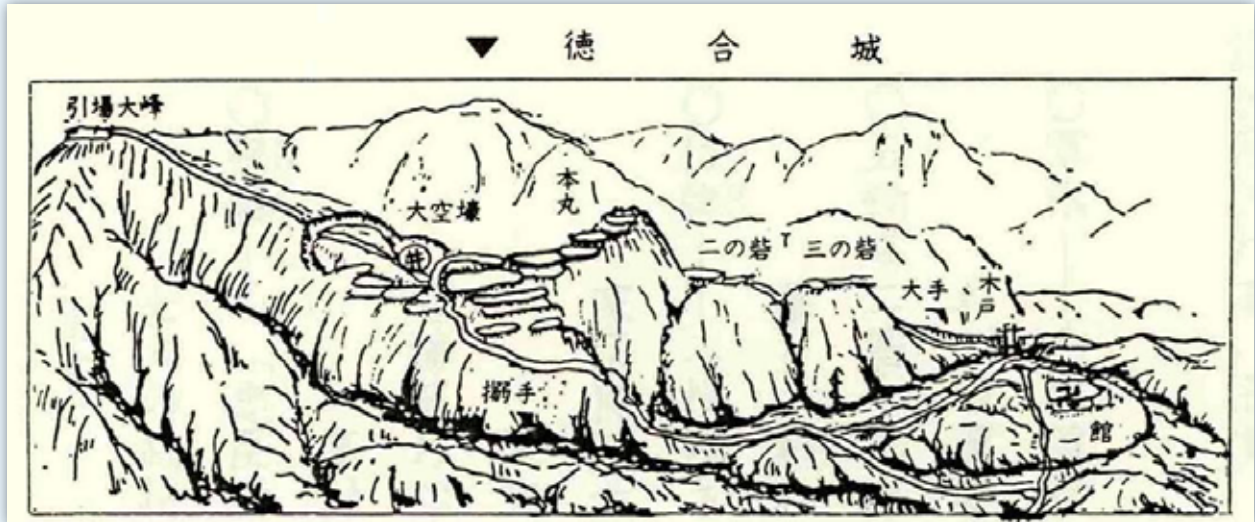
平成十七年二月二十八日指定  
糸魚川市教育委員会

### ○ 本城地区

今の深山部落にあって、本丸（22×25 m）を中心に、大峰砦、二の砦、三の砦があったと思われます。社や堂があったのかも知れません。南に尼池の名で残る井戸跡、北側下方に千人溜などがありました。

### ○ 屋敷地区

本城地区の北西側下方で、郭跡と推定される削平地が多くあります。倉屋敷・弔屋敷・墓塚・空堀・木戸口・一の谷・傾城屋敷などの地名が今でも残っています。



### ○ 館地区

屋敷地区の下方で、今の中村部落のあたりをいいます。盆地になっており、城跡の全景を望むことができます。館跡の空田堀は、東西 260 m、南北は 350 m、周り 2km にわたって、跡をとどめています。城主村山氏が使っていた軍旗「勇」が、今も文化財として残っています。



### ◎ 城主・村山氏について

名族村山氏の発祥は、平安末期で、信州高井郡村山（現在の須坂市村山）であるといわれています。南北朝時代の元弘・建武の頃（1331～1335年）南朝側に立っての恩賞として、北信濃から越後に移り、その所領は、西浜地方では、頸城郡内の本堂保、南条保、沼田保、菌田保、今泉郷2ヶ所の計6ヶ所で、徳合城を本拠としていました。徳合城は領主の居館を兼ねた根小屋式の館城で、この地方では数少ないものでありました。

### 【交通】

城跡へ行くには、JR 能生駅から出る仙納行バス（日曜日運休）に乗り、中村バス停で下車して、徒歩 30 分位です。